

新地町の復旧・復興状況

2017年3月現在

新地町の主な復興事業の進捗状況を写真で紹介しています。

昨年12月、5年9ヶ月ぶりに常磐線が再開通しました。新地駅前には住宅が建ち始め賑わいが出てきました。



常磐線の不通区間が再開通し、通勤通学の利便性が戻り、来訪者の増加が期待されます。先に全区間が開通した高速道路も、新地ICで約12,000台/日の通行量と徐々に増えています。



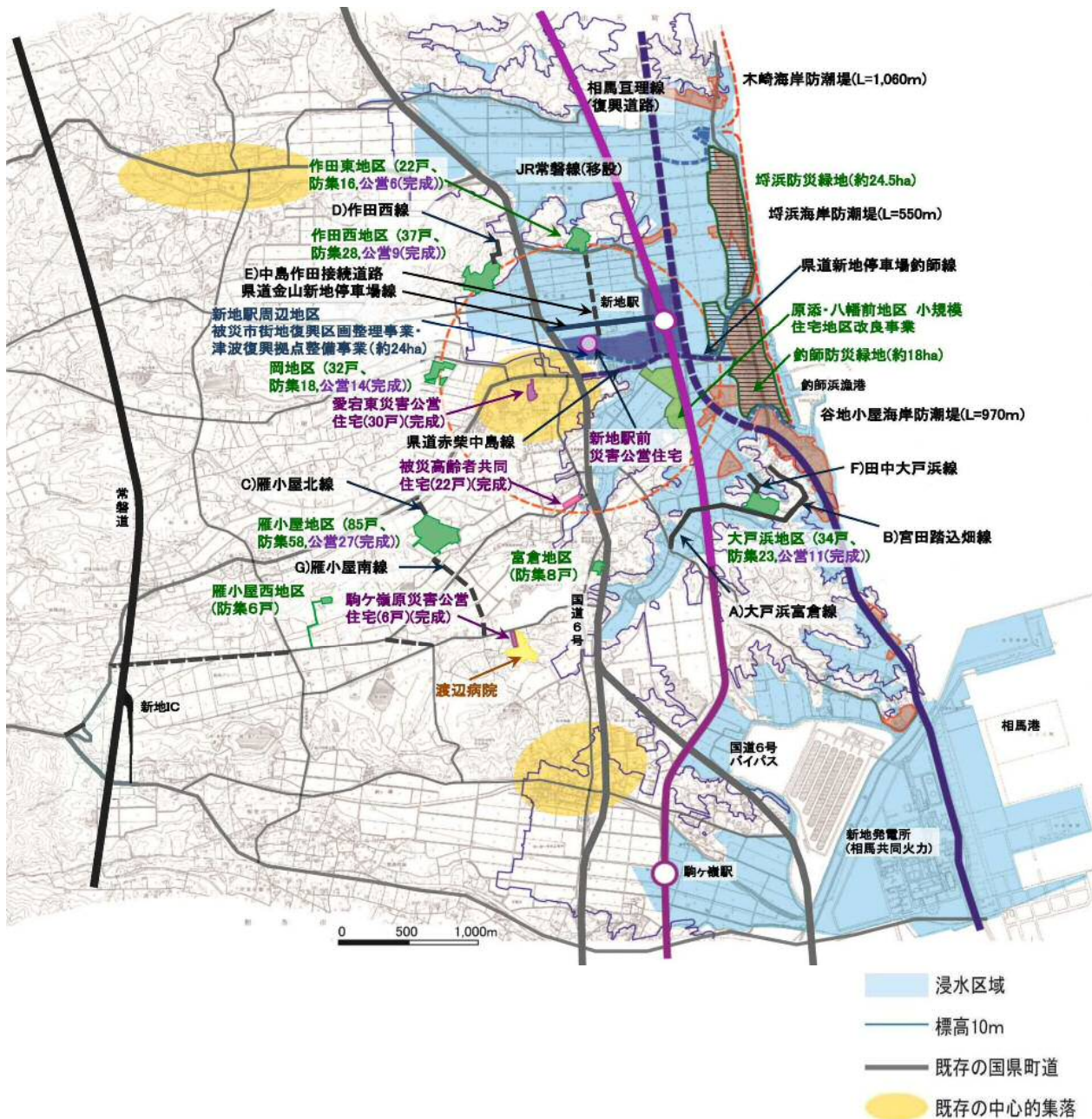
常磐線の再開通効果はこんなところにも。新地駅まで電車を利用し、駅から数キロ以上の鹿狼山まで徒歩で往復する登山者が増えました。



新地駅周辺の土地区画整理事業「23.7ha」は、造成が概ね終わりました。以前住んでいた方々や、分譲地を購入した方の住宅建築が始まり、新しい街に賑わいが出てきました。また、駅周辺にはクリニックを建築中で、今後、温浴施設やホテル、交流センター等の建設が予定されています。

← 新地駅跨線橋から役場方面を望む

新地町 主な復興事業箇所図



浜通りの最北端の町



凡 例

- ① 防災集団移転促進事業 移転団地
- ② 区画整理・津波復興拠点整備事業
- ③ 公営住宅
- ④ 被災高齢者共同住宅
- ⑤ 小規模住宅地区改良事業
- ⑥ 県道整備
- ⑦ 町道整備
- ⑧ JR常磐線移設
- ⑨ 河川
- ⑩ 防災緑地
- ⑪ 海岸防潮堤
- 災害危険区域

—新地町の復旧・復興状況—

震災から6年となる「平成29年3月初旬」の復旧・復興事業の進捗状況

1. 防災集団移転	高台等に整備された7箇所の新団地154区画は(空き3区画を除く)、全て入居済又は建築中と住宅再建が大きく進みました。
2. 災害公営住宅	愛宕東、駒ヶ嶺原、大戸浜、岡、雁小屋、作田東、作田西、中島(新地駅前)と全ての団地が完成し入居済みです。仮設住宅は2つの団地に集約され、残りは撤去されました。(がんごや仮設住宅には町外の多くの被災者が今も入居しています)
3. 被災高齢者共同住宅	台湾赤十字社の支援で、老夫婦や一人暮らしの高齢者を対象に、小川地区に22戸の集合住宅を整備しました。(H25/11月から入居)
4. 区画整理	新地駅周辺の旧中島地区「23.7ha」を、約4メートル盛土した新しい街が完成。元住民の住宅再建や、新たに分譲地を購入した方の住宅建築が進み、街に賑わいが出てきました。また、防災センター(兼)消防署や社員寮も完成し、駅周辺ではクリニックを建築中で、温浴施設、ホテル、交流センター等の計画が具体化しています。
5. 防災緑地	釣師防災緑地(約18ha):宅地跡の盛土が進み「どんぐり」も育成中。道路は県内初の信号なし交差点を整備中です。(町事業) 埴浜防災緑地(約24.5ha):同様に盛土工事を施行中で、元地区住民がコスモスを育てています。(県事業)
6. 道路	(復興道路) 町道:避難道路の整備がほぼ終わり既に供用を開始。また、地区間を連絡する新たな路線として「雁小屋線」を整備しています。 県道:相馬亘理線バイパス工事が進んでいます。金山新地停車場線は、国道6号線から新地駅前直行ルートに変わりました。 (災害復旧) 町道:沿岸部の1路線が3月までに完了し、これで全箇所の復旧が完了します。 県道:金山新地停車場線作田地内完了し、旧・浜街道も工事が進んでいます。
7. 河川	(改修事業) 砂子田川:新地駅周辺区画整理事業と一体で、河川拡幅改修が進められています。(県事業) 地蔵川:河口付近橋梁と堤防を高くするのに合わせ、ルート変更、護岸、新橋梁工事が進んでいます。(県事業) (災害復旧) 濁川、三滝川、埴川:河川堤防の嵩上げを県事業で実施し、工事はほぼ完了しました。
8. 海岸	防潮堤:以前より1m高い「TP7.2m」の高さに嵩上げする工事がほぼ終わりました。(県事業)
9. 農業	農地復旧:復旧予定農地の8割弱で復旧が終わり、残る旧・常磐線東側等もH30年3月まで完了予定です。 排水機場:被災した6箇所の復旧が終わり稼働しています。(県事業)
10. 漁業	釣師浜漁港は、沈下岸壁の嵩上げ、漁具倉庫の再建が終わり、荷さばき所を建築中。漁港南部に建設中の水産加工施設も近く稼働します。原発事故に伴う漁獲制限は、2/1現在、試験操業対象魚種が97種に増え、徐々に元の漁に戻りつつあります。
11. JR常磐線	昨年12月10日に、不通となっていた「浜吉田～相馬間」が5年9ヶ月ぶりに再開通しました。

新地町の復旧・復興状況

住まいの再建（1） 防災集団移転促進事業（7団地）、小規模住宅地区改良事業（原添・八幡前地区）



作田東団地（防集16区画、町営住宅6戸）



作田西団地（防集28区画、町営住宅9戸）



岡団地（防集18区画、町営住宅14戸）



雁小屋団地（防集58区画、町営住宅27戸）



大戸浜団地（防集23区画、町営住宅11戸）



富倉団地（防集8区画）



雁小屋西団地（防集6区画）



小規模住宅地区改良事業(小川原添地区)

原添と八幡前地区は災害危険区域に指定せず、
全壊した住宅を撤去して緑地に整備

集団移転団地は、町の中心から概ね「1.5km」の範囲に、7団地157区画整備しました。分譲済全区画が入居済み又は建築中です。

新地町の復旧・復興状況

町営住宅は現在募集中です。詳しくは町ホームページをご覧ください → <http://www.shinchi-town.jp/site/fukkou/jyutakukakari-nyukyo.html>

住まいの再建（2） 災害公営住宅（8団地-129戸）、被災高齢者共同住宅（台湾からの支援で22世帯）



鉄筋コンクリート造、UR都市再生機構に整備を委

愛宕東町営住宅(30戸、空き3戸)



作田東町営住宅(6戸)



作田西町営住宅(9戸、空き1戸)



雁小屋町営住宅(27戸、空き2戸)



渡辺病院の隣です

駒ヶ嶺原町営住宅(6戸、空き1戸)



岡町営住宅(14戸)



大戸浜町営住宅(11戸、空き2戸)



間取りは26戸すべて異なります

中島町営住宅(26戸、空き14戸)



災害町営住宅は、防集団地5地区他3地区に129戸整備されました。また、被災した高齢者のため、台湾赤十字社の支援により22世帯分の共同住宅を小川地区に整備しました。

新地町の復旧・復興状況

新地駅周辺土地区画整理事業（JR常磐線復旧）、防潮堤・防災緑地整備事業



土地区画整理事業完了時イメージ



区画整理事業により整備された新地駅前



区画整理：駅前駐車場と、その奥は社員寮



防潮堤：釣師海水浴場付近



釣師緑地完成イメージ



2015年3月のどんぐり植樹祭



松、どんぐり等を育てています（釣師）



埠浜緑地、コスモスの種播き(2016/07)

新地駅周辺では、住宅建築の他にクリニックが着工しました。今後、温浴・宿泊施設も計画され、賑わいの街が出来つつあります。防潮堤はほぼ完成し、背後の緑地には多くの方々の協力で「どんぐり」を植えて大切に育てています。

新地町の復旧・復興状況

道路、農林水産業（釣師浜漁港、排水機場、農地）河川の復旧



踏切を無くし立体交差に

町道：大戸浜富倉線の「大富希望の橋」



沈下した岸壁は復旧されました（釣師浜漁港）



農地復旧：ガレキを撤去し大豆を作付け



県道：釣師に、県内初信号の無い交差点、ラウンドアバウト



完成が近い水産加工施設（大戸浜地内）



河川：役場東方の砂子田川、拡幅工事中



総合公園方面へのアクセスが向上する雁小屋線（小川からグランド方面を見る）

町道：防集新団地と町拠点施設等を結ぶ



排水機場も復旧完了（写真は堺浜）

沿岸部から内陸への新設道路は、震災の教訓から「踏み切り」の無い避難路として整備しました。釣師浜漁港は岸壁嵩上げ、漁具倉庫整備が終わり、荷さばき所を建築中です。漁港南部には、地元で採れた魚を加工しスーパー等に卸す「水産加工施設」が近く稼働します。

新地町の復旧・復興状況

大規模プロジェクト、定住促進住宅、町外からの移住者増、仮設住宅の集約撤去



新潟と新地町がパイプラインでつながります

相馬港(町内)に建設中のLNG基地



首都圏にバスでも行けるようになります

新地インターに建設中の高速バス停



福田地区に整備した若者向け定住促進住宅は、全12世帯が入居しました

福田定住促進住宅---12戸



地区世帯の増加は集会所が狭くなる等新たな課題も出ています

町外からの移住者の多い「岡地区」



渡辺病院西部の道路沿線では、個人のほか複数業者が宅地を分譲中

町外からの移住者の多い「駒ヶ嶺原地区」



元のトラックに復旧中の陸上競技場。各種大会の主要会場になる日も近い

仮設住宅が撤去され元の陸上競技場に復旧中



「がんごや」仮設住宅は当分残されます

震災後、多くの町外被災者が町内に住宅を再建し、その数は約150世帯。新地の岡地区、駒ヶ嶺の原地区は特に多い地区です。
また、新地駅周辺土地区画整理事業でも、町が分譲する宅地が十数区画ある他、民間の分譲も始まり新たな人口増が期待されます。一方、町中心部から遠い福田地区は人口が増えにくく、定住促進策を行っています。

仮設住宅は、被災町民の住まい再建が大きく進んだことから、集約した2団地(柔剣道場前、がんごや)以外は撤去されました。町外の被災者が現在も多く入居する「がんごや仮設住宅」は当分残されます。